

Red Hat Hybrid Cloud Console から データ駆動型の効率を得る

情報に基づいて Red Hat サブスクリプションに関する決定を下す

Red Hat® サブスクリプションを最大限に活用することは、特に複数の製品やサービスを扱う場合には困難になることがあります。

ビジネスが成長し、Red Hat テクノロジーを使用するチームやプロジェクトが増えるにつれて、その複雑さは増大します。しかし、Red Hat はサブスクリプションの価値を最大化するのに役立つさまざまなツールを提供しています。

そのような課題に対処するには、何を購入したのか、どのように使用されているのか、最適なデプロイにはどのようなアクションが必要なのかを明確に把握することが必要です。正確なデータがなければ、リソースを過剰に消費したり、リソースを十分に活用したりできない可能性があります。

さらに、手動での追跡方法から、より自動化されたシステムへの移行には、独自の一連の課題が伴います。多くの場合、更新を行ったり将来のニーズを予測したりする際には詳細な知見が必要になります。

Red Hat ソリューションへの投資の最適化を目指す場合に重要になるのが、データに基づいて意思決定を行う能力です。しかし、膨大な量のデータと単純化された包括的なビューの必要性に圧倒されてしまうこともよくあり、自信を持って行動することが困難になります。

Red Hat のアプローチ: サブスクリプション管理の効率化

Red Hat は、統合サブスクリプション管理システムを Hybrid Cloud Console に導入しました。これは、サブスクリプション管理のプロセスを単純化し、使用状況と購入決定の全体像を提供することを目的としたものです。

単純化されたアクセスと管理

Hybrid Cloud Console インタフェースは、アクセスの容易さとユーザー中心の設計を重視しています。

価値を高めるツール

Red Hat サブスクリプションには、新規ユーザーおよび経験豊富なユーザーが製品の価値を最大化するのに役立つ 2 つの主要なツールが含まれています。

- ▶ **Red Hat で購入したもののリスト:** Hybrid Cloud Console の「サブスクリプション・インベントリー」と呼ばれるこのツールは、購入したすべての Red Hat 製品の包括的なリストとして機能し、開始日や終了日などの重要な詳細を提供します。これにより、ユーザーは自分の利用権を明確に理解し、自由に使えるものを常に把握できるようになります。Red Hat を初めて使用する場合でも、熟練したユーザーでも、このインベントリーによってアセットを追跡するタスクが効率化され、更新の管理が容易になり、サブスクリプションの失効を回避できます。
- ▶ **サブスクリプションサービス:** 「Subscription Watch」と呼ばれることもありますが、これは Red Hat 製品の実際の使用状況に関する詳細な知見を提供します。このツールを使用すると、購入したサブスクリプションと使用量を比較できるため、デプロイメントを最適化し、使用パターンを理解することができます。リソースがどのように使用されているかを明確に示すこのツールにより、ユーザーは情報に基づいてサブスクリプションの更新や追加購入に関する意思決定を行うことができ、本当に必要なものだけを購入できるようになります。

自動化されたインタフェース

自動化されたインタフェースによって手動入力の必要がなくなり、ユーザーはより効率的にシステムを操作できるようになります。日常的なタスクを自動化することで、エラーの可能性が減り、ユーザーがより高いレベルの意思決定に集中できる時間が確保されます。

これらのツールは、Red Hat を使い始めたばかりのユーザーから複雑な環境を管理しているユーザーまで、すべてのユーザーのニーズを満たすようにカスタマイズされており、効果的なサブスクリプション管理に必要な明確さと知見を提供します。

データに基づく意思決定

Red Hat は、生データを実用的な知見に変換してサブスクリプションの決定に役立つ情報を提示するツールをお客様に提供します。履歴データと使用状況に関する知見を使用することにより、Red Hat 製品が経時的にどのように利用されているかをより深く理解できるようになります。この可視性は、更新、拡張、リソース割り当ての最適化に関する戦略的意思決定を行うために極めて重要です。

Red Hat のアプローチの主な利点の 1 つは、Hybrid Cloud Console を通じて最大 5 年間の使用履歴データにアクセスできることです。このデータにより、傾向を追跡し、パターンを特定し、将来のニーズをより正確に予測できるようになります。たとえば、過去の使用率を調査することで、特定のサブスクリプションがいつその容量に達するかを予測できるため、必要になってから購入に動くのではなく事前に計画できるようになります。この先見性により、不必要な出費を防ぎ、リソースを最も必要な場所に確実に割り当てられるようになります。

このプロセスでは、Hybrid Cloud Console のサブスクリプションサービス機能が中心的な役割を果たします。この機能により、サブスクリプションの制限に対する製品の使用状況を示す詳細なグラフとしきい値が提供されます。お客様は、これらの制限に近づいているかどうかを確認し、現在の使用量を最適化する、または追加のサブスクリプションを購入するといった、適切な措置を講じることができます。このデータ主導のアプローチは、過剰支出を回避するだけでなく、すでに投資したリソースを確実に最大限活用することにも役立ちます。

これらの知見を日常業務に統合することで、効率を向上させ、コストを削減し、テクノロジーへの投資についてより戦略的な意思決定を行うことができます。Red Hat のツールは、サブスクリプションを効果的に管理するために必要な明確性を提供します。予算が厳しい環境において、このツールはより最適化されたコスト効率の高いビジネス運営に貢献します。

Red Hat ポートフォリオ全体の統合

Red Hat のサブスクリプションサービスは、製品ポートフォリオ全体にわたって一貫したエクスペリエンスを提供するように設計されており、Red Hat Enterprise Linux®、Red Hat OpenShift®、および Red Hat Ansible® Automation Platform とシームレスに統合されます。この統合により、お客様は使用する特定の Red Hat 製品に関係なく、統一された方法でサブスクリプションを管理できるようになります。

Red Hat Enterprise Linux ユーザーにとって、サブスクリプションサービスは製品の使用状況に関する詳細な知見を提供してくれるため、技術ユーザーはサブスクリプションの制限を超えることを心配することなく効果的にリソースをデプロイできます。

この同じツールが **Red Hat OpenShift** にも適用されます。Red Hat OpenShift では、コンテナ化された環境の動的な性質により、パフォーマンスとリソース割り当てを最適化するための綿密な監視が必要です。Hybrid Cloud Console のサブスクリプションサービス機能を使用することで、ユーザーは Red Hat OpenShift クラスタを追跡および管理できるため、その使用量と購入したサブスクリプションが整合していることを確認できます。

この統合は **Red Hat Ansible Automation Platform** まで拡張され、同じ最適化されたサブスクリプション管理エクスペリエンスからメリットを得ることができます。Ansible Automation Platform エクスペリエンスはまだ開発中ですが、基本原則（ソフトウェアの使用、ワークロードのタグ付け、使用状況の追跡）はポートフォリオ全体で一貫しています。この統合アプローチにより、サブスクリプション管理が最適化され、単一の画面で Red Hat 環境を表示および管理できます。その結果、運用効率が向上し、すべてのリソースを完全に活用できるようになります。

Red Hat Insights と Red Hat Satellite

Red Hat Insights

Red Hat のサブスクリプションサービスと Hybrid Cloud Console にとって不可欠な Red Hat Insights は、強力な分析機能を提供します。その機能は Red Hat 環境の最適化とセキュリティへの注力に役立ちます。システムのパフォーマンスを分析し、潜在的な問題を特定し、改善のための推奨事項を受け取れるため、データに基づいて意思決定を行うことができます。

Red Hat Insights を Red Hat 環境に統合すると、効率が向上し、リスクが最小限に抑えられ、システムが常に高い効率で稼働するようになります。Red Hat Enterprise Linux、Red Hat OpenShift、または Ansible Automation Platform のいずれかを管理している場合でも、Red Hat Insights は、リソースを最適化し、実用的なデータでビジネス目標をサポートするツールを提供します。

Red Hat Satellite

オンプレミス管理を強化するために Red Hat Satellite を使用している場合は、Red Hat のホスト型サブスクリプションサービスと統合することで、Hybrid Cloud Console とのデータの同期が可能になります。この統合により、Red Hat 製品の使用状況が統合表示され、インフラストラクチャ全体の可視性と管理が向上します。

Red Hat Satellite ユーザーはサブスクリプションを追跡およびレポートできるようになりました。これはコンプライアンス要件の遵守とリソース割り当ての最適化に役立ちます。Red Hat Satellite は、オンプレミスのツールをクラウドベースのサブスクリプション管理サービスに接続することで、Red Hat 環境の管理、監視、最適化に対する包括的なアプローチを提供し、オンプレミスとクラウドベースの管理の間のギャップを解消します。

サブスクリプションサービスの実際の様子

Hybrid Cloud Console の上部にサブスクリプション・インベントリが表示され、すべてのサブスクリプションの条件の概要が示されます。

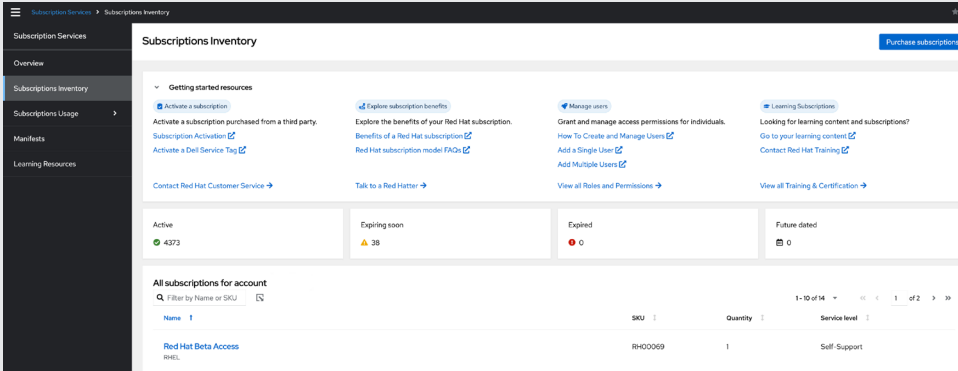


図 1. サブスクリプションのインベントリ画面には、ツールを最大限活用するための多くのチュートリアルもあります。

サブスクリプション・インベントリの下に、サブスクリプションの使用状況のセクションが表示されます。Red Hat サブスクリプションの使用状況を経時的に、すべてのデプロイメントにわたるインベントリ全体と簡単に比較できます。たとえば、物理、仮想、パブリッククラウドのソケットの使用状況に応じて Red Hat Enterprise Linux の使用状況を表示できます。

同様に、サブスクリプションに応じて、CPU コアまたはソケットによって測定された Red Hat OpenShift の使用状況を表示します。

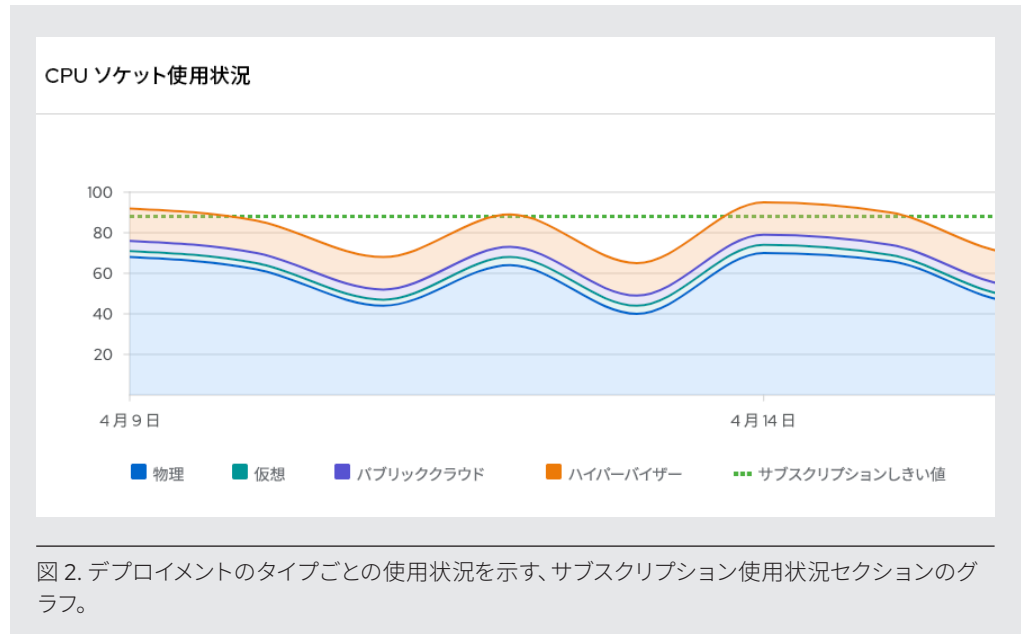


図 2. デプロイメントのタイプごとの使用状況を示す、サブスクリプション使用状況セクションのグラフ。

サブスクリプションのしきい値レベル (緑の点線) を表示できます。これは、契約全体での同様のサブスクリプションの合計です。たとえば、各 Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションのソケット制限が加算され、これがインベントリの CPU アーキテクチャをカバーするものとなります。

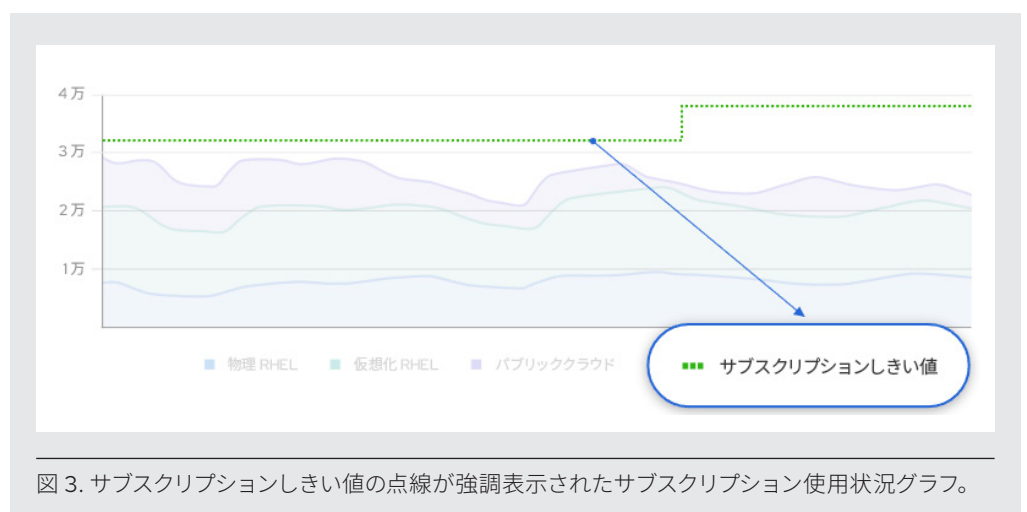


図 3. サブスクリプションしきい値の点線が強調表示されたサブスクリプション使用状況グラフ。

Red Hat サービスでプロセスを継続

Red Hat サブスクリプションサービスと Hybrid Cloud Console がデータを活用して購入に関する決定をサポートする方法の詳細について確認する、およびシステムを登録して接続するには、[Red Hat Hybrid Cloud Console](#) にアクセスしてください。



Red Hat について

エンタープライズ・オープンソース・ソフトウェア・ソリューションのプロバイダーとして世界をリードする Red Hat は、コミュニティとの協業により高い信頼性と性能を備える Linux、ハイブリッドクラウド、コンテナ、および Kubernetes テクノロジーを提供しています。Red Hat は、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、既存および新規 IT アプリケーションの統合、複雑な環境の自動化および運用管理を支援します。[受賞歴のある](#)サポート、トレーニング、コンサルティングサービスを提供する Red Hat は、[フォーチュン 500 企業に信頼されるアドバイザー](#)であり、オープンな技術革新によるメリットをあらゆる業界に提供します。Red Hat は企業、パートナー、およびコミュニティのグローバルネットワークの中核として、企業の成長と変革を支え、デジタル化が進む将来に備える支援を提供しています。

アジア太平洋 +65 6490 4200 apac@redhat.com	インドネシア 001 803 440 224	マレーシア 1800 812 678	中国 800 810 2100
オーストラリア 1800 733 428	日本 03 4590 7472	ニュージーランド 0800 450 503	香港 800 901 222
インド +91 22 3987 8888	韓国 080 708 0880	シンガポール 800 448 1430	台湾 0800 666 052

- f** fb.com/RedHatJapan
- X** twitter.com/RedHatJapan
- in** linkedin.com/company/red-hat